



Newsletter

創刊号
2013.8

科学技術分野の未来を拓くー高専における男女共同参画ー

ニュースレター創刊にあたって



理事 岩熊まき

国立高専機構では、平成22年度に男女共同参画推進委員会、平成24年度に男女共同参画推進室を設置し、男女共同参画推進の体制を整えるとともに、具体的方策の策定・実施について様々な取組を進めております。また、平成24年度から3年間、文部科学省補助事業「女性研究者研究活動支援事業」にも採択されています。

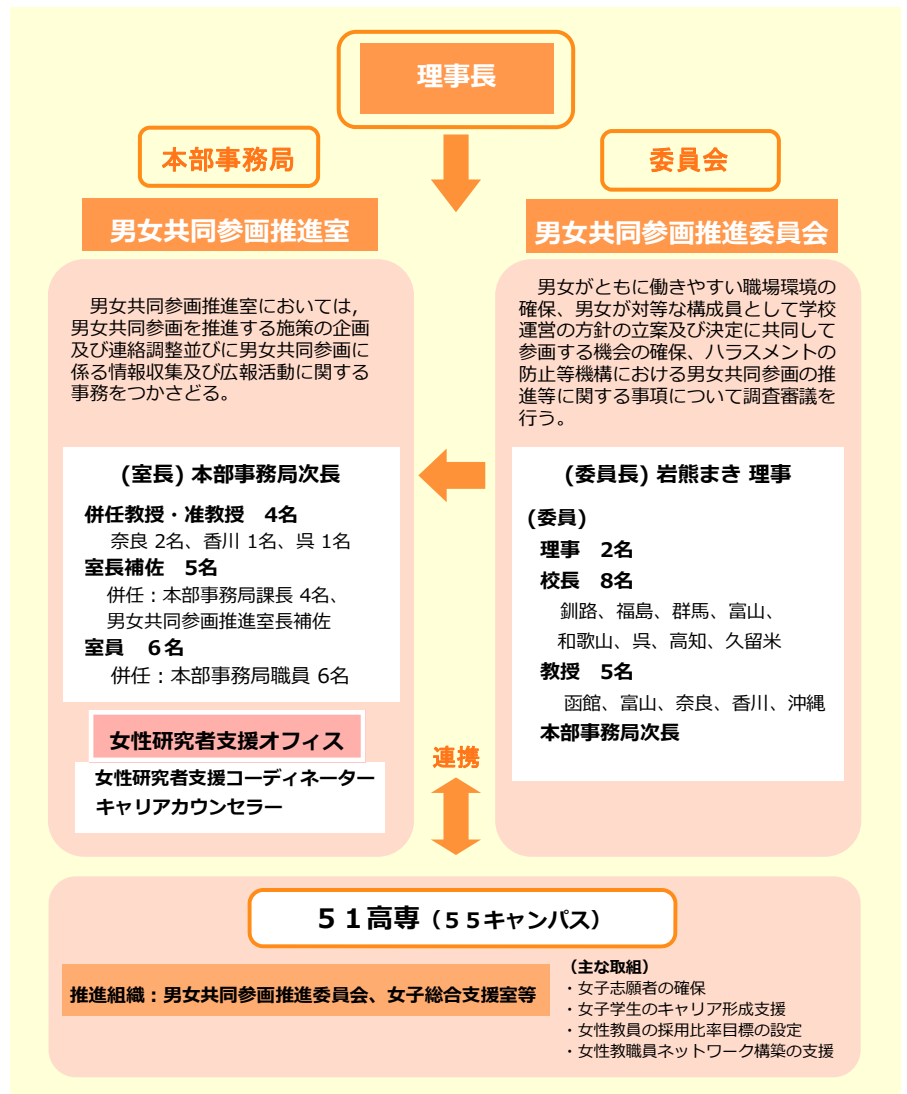
このたび、男女共同参画推進の広報・啓発の一環として、男女共同参画に関する様々な情報提供を行う「Newsletter」を創刊することとなりました。国内外の取り組みや関連するデータ、高専機構並びに各校の取り組みを知っていただき、今後の取り組むべき課題について自ら意識する資料として大いに活用されることを期待しています。

男女共同参画推進体制

機構は、「男女共同参画社会基本法」（平成11年施行）の理念に基づき、平成23年3月に技術者育成を通じて男女共同参画社会の実現に貢献するという機構としての基本理念を明らかにした「男女共同参画宣言」を理事長名で公表し、次いで平成23年9月に「男女共同参画行動計画」を策定しました。

また、男女共同参画を積極的に推進していく体制整備を図り、平成22年度に理事、校長及び女性教員を構成員として、男女共同参画に関する総合的な推進方策について審議する「男女共同参画推進委員会」を設置し、平成24年度には、体制強化を図るため機構本部事務局に、「男女共同参画推進室」を設置しました。

※右図は平成25年度の体制



男女共同参画行動計画

男女共同参画行動計画は「独立行政法人国立高等専門学校機構男女共同参画宣言」（平成23年3月17日）にもとづき、その基本理念の実現に向けて基本方針及び重点課題について明確化するものです。

各高専及び機構本部は、その果たすべき役割を認識して、密接な連携のもと本行動計画を推進していくものとします。

行動計画の推進期間は、平成23年10月から平成30年度（第3期中期計画最終年度までとし、平成25年度には1回目の中間評価を行い、その後の取組に反映させます。また、最終年度には本行動計画の進捗状況を取りまとめるとともに、必要に応じて次期の行動計画を策定することとします。

4つの基本方針

- ★女子学生の比率向上を図る。
- ★女子学生が技術者としてのキャリア形成ができるよう支援する。
- ★女子学生がより快適に学べる修学環境の整備を図る。
- ★推進モデル校を設置し、その取組を支援するとともに、全校への普及を図る。

1

教育活動全般を通じた男女共同参画の推進

2

教育・研究・就業における男女共同参画の推進、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境整備

- ★女性教職員の比率向上を図るため、特に新規採用教員に占める女性の比率を当面20%以上とすることを目標とし、早期の達成を目指すとともに、女性教職員の採用・登用計画を作成し、積極的に取り組む。
- ★女性教職員に係るネットワークづくり等によりキャリア形成を支援する。
- ★女性教職員の就業環境の整備を図る。
- ★教職員が仕事と生活の両立を図れるよう、男女を問わず各種制度の利用を促進し、必要に応じて拡充整備する。

3

男女共同参画の意識啓発

- ★各高専における男女共同参画に関する推進体制を整備するとともに、意識啓発を図る。
- ★男女共同参画の取組について、学内外への情報発信を強化する。
- ★ハラスメント防止体制及び相談体制の整備、充実を図る。

4

法人・学校運営における意思決定への男女共同参画の推進

- ★女性教職員の指導的地位への登用等を積極的に推進する。
- ★女性教職員の各種委員会等への参画を積極的に推進する。

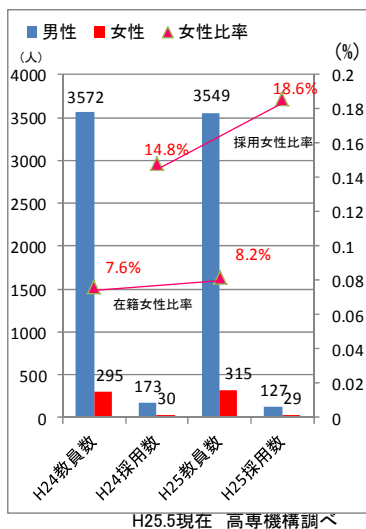
取組いろいろ

女性教員比率向上のためのポジティブ・アクション

高専機構では、女性教職員を積極的に採用するため、新規採用に占める女性比率を当面**20%以上**とする数値目標を設定しています。

- 女性教員の限定公募・優先採用（募集要項に記載）
- 特別経費の配分（女性教員を採用した高専に教育研究活動に必要な経費を配分/1人につき100万円）
- 大学等への周知活動（大学のキャリアガイダンス等に向向き、女性の積極的採用を周知広報）

高専における女性教員の割合



女子学生を増やそう

女子中学生の理系進路選択を支援するため、さまざまな取り組みを行っています。

- キラキラ高専ガールになろう（中学生向け冊子の作成）
- 高専女子百科Jr.（学校別の中学生向け冊子の作成）
- 女子中高生夏の学校（女性教育会館主催イベントに参加）



キラキラ高専ガール



高専女子百科

女子学生のキャリアを応援しよう

女子学生が就職後も活躍できるように企業等に向けて学生の力をアピールする機会を設けています。

- 高専女子フォーラム（学生・企業のポスター発表等）

岐阜工業高等専門学校 建築学科 教授 鶴田 佳子

名古屋在住。夫、長女（高校1年生）、長男（小学6年生）の4人暮らし。
 1989年 名古屋市建築局に建築技師として採用される
 1990年 岐阜高専建築学科に着任
 1995年 博士（工学）を取得（中部大学）
 1997年 第1子（長女）出産（育児休業8か月）
 2001年 第2子（長男）出産（育児休業4か月）
 2010年度～2011年度 建築学科学科長
 本県市都市計画審議会会長、郡上市都市計画審議会会長等地方自治体の審議会・審査会およびまちづくりに関する計画策定に多数関与。

●仕事の内容は？

平成元年4月から一年間勤務した名古屋市役所建築局を退職して、平成2年4月に岐阜高専に赴任し、今年で24年目になります。専門分野は都市計画。研究や教育活動、学内の校務に加え、地元自治体の審議会や各種計画策定に関与してきました。岐阜高専は岐阜県内で建築学科を持つ唯一の高等教育機関であり、更に建築学科に席をおく都市計画研究者は私一人ということで、建築・都市計画に関わる、さまざまな分野の近隣自治体の依頼に応えざるを得ない状況でした。

第2子出産後の平成13年頃からは急速に各教員の校務の負担が増えたこともあり、保育時間のできるだけ長い保育園を選んだものの、朝7時に子供たちを保育園に送り、19時まで迎えに行かなければならない生活スタイルでは、学内の仕事をこなすのが精一杯で、研究活動や学外の仕事は必要最小限に留めてきました。この4月に長女が高校に入学し、やっと、この12年間封印してきた研究活動や学外に向けた活動にも少しずつ前向きに取り組むことができるようになりました。東日本大震災後、「地域力」の重要性が指摘されています。私もこの地の「地域力」育てを少しでもお手伝いできたらと思い、研究活動に取り組んでいます。

●仕事と育児とのバランスは？

仕事も育児も最低限こなすのが精一杯でしたが、仕事と育児のバランスはその時々で違っていました。一日24時間隙間なく働き、育児休業や介護休業中も専攻科生や卒研生の研究指導もしてきました。そのため、仕事の依頼が増えれば、夫や子供たちに負担が強い、子供が病気になる等育児の負担が増えれば、職場で周りの方々に負担を強いることになりました。下の子（長男）の育児休業



平成14年秋撮影：夜も土日もなかなか家にいられないことを心配して、夫が子供たちを連れて高専まで訪ねてくれました。（長女4歳、長男1歳）

明け、4年担任、専攻科委員、JABEE委員、FU委員等複数の業務を担当し、早いときには朝6時前に家を出て帰宅は夜10時過ぎ。添い寝をしてやろうと早く帰り、子供が寝ると夜中に仕事をするという生活をして、体調を崩しました。その時は、後半の育児を取得し、育児明けの家事・育児もすべてこなしてくれた夫、寂しさに耐え続けてくれたであろう1歳の息子と4歳の娘に多大な負担をかけたことは言うまでもありません。息子はその頃の母親とのスキンシップ不足が原因で小学校一年生9月から母親と一緒に登校できなくなり、止む無く介護休業を頂き、半年間息子と一緒に小学校に登校し授業を受け、幼少期に紡げなかった母子の赤い糸を半年間かけて紡ぎました。産休、育児休業に加え、介護休業・・・建築学科の先生方に何度となくご負担をおかけすることになり、辞職しようと学科長のところに相談に伺ったのは一度や二度ではありません。その時の励ましがなければ今の自分はなかったと心から感謝しています。

●家庭での役割、子どもとの関わり方は？

我が家では、家事において、父親と母親の区別はないと思います。食事は先に帰宅した方が作ることになっているので、食材が当初の思惑と別のものに変身していることもしばしばです。子供たちにも小さい頃からできる手伝いをさせています。家訓？は「働らかざるもの食うべからず」。食卓の用意は手の空いている者みなでやります。こうした食事、保育園の送迎など、日常的にこなすことは時間さえやり繰りすれば何とかできますが、一番気を使ったのは、どんなに忙しくても相談ごとができる環境を作ってやることです。「今日、何かあった？」と尋ねて、悩み事を話してくれる子供などいません。たいていは「別に」という返事しか返ってきません。でもこの「別に」は全くあてになりません。だいたったって、本人から「実はね・・・あの時ね・・・」と話し出します。うちの場合は小さいときは入浴中、小学校高学年くらいからは夜、布団に入ってからが多かった気がします。最近では、「母さん、もう寝る？」と聞いてくるときは、たいてい悩みがあるときなので、そういうときは一緒に布団に入って、1時間でも2時間でも本人が安心するまで付き合います。

●後輩へのメッセージ

出産してから、特に子供が小さいうちは本当に時間が足りないと思います。私も通勤に便利な場所に転居したり、駅の近くに駐車場を借りたり、可能な限り時間をお金で買ってきました。それでも一日は24時間・・・限界があります。育児も仕事も中途半端・・・このまま仕事をしていていいのかな？と思悩む方も多いと思います。その中で支えとなるのは子供たちの存在です。子供は誰もが世界中の中でお母さんが一番好きです（お父さん方ごめんなさいm(__)m）。それでいて、お母さんの一番の理解者で、誰よりも母親思いです。息子が小学校に一人で登校できなくなったとき、泣きじゃくりながら言った言葉は「ぼくがいなくなればいいんだ。そうしたら母さん仕事がいっぱいできるでしょ」。決して「仕事をやめて、僕のそばにいて」とは言わないのです。そんな子供たちの愛に毎日支えられています。1歳の子供にとって1歳の時は今しかありません。その時々の子供たちとの時間を大切にしてください。一緒にいる時間は短くても、言葉にできない子供たちの心に寄り添ってあげてください。あとは毎日一生懸命生きていたら、子供たちはきっと何かを感じ取ってくれると思います。

最後に、私が体調を崩して仕事を休んでいるときに、中学2年生だった長女が私の誕生日にくれたメッセージを添え、頑張っているお母さんたちへのエールにしたいと思います。きっと、皆さんのお子さんたちも同じように思っていると思うからです。

「お母さんへ お誕生日おめでとう。今回の手紙は手帳とかに入れやすいように小さめの紙に書きます。今までいろいろありがとう。でも一番感謝しているのは母さんの存在自体です。体を大切にしてくださいね。仕事のガンバリすぎには注意してね。」（娘も今は高校生になり「将来の夢は母さんのように研究者になること！」と言って来ています。それが何より嬉しいです）

建築学科長（下村波基先生）から一言・・・

学生を育てるには、多種多様な観点があり、それは組織の構成員がそれぞれを補い合わせるべきものではないと考えます。その不可欠となった一員を目先のことで失うのは同僚として避けたいと思うのは当然なことです。この度めでたく「開封」されたとのことですが、これまで通り、自然体でお願いいたします。

高専女子フォーラムを開催します！

機構では、女子学生のキャリア教育の場とするとともに、高専女子学生による研究・学生生活・高専教育の紹介を通じて、女子高専生の実力を社会に向け発信し、科学技術分野における女性技術者の活躍促進について企業・高専関係者が意見交換を行うことを目的に、「高専女子フォーラム」を開催いたします。

本フォーラムは、2011年度から2年間にわたり展開された高専改革推進経費による「全国の高専女子学生の連携による高専女子ブランド発信事業」の一環として、過去3回（東京2回・関西1回）開催されたフォーラムを継承したもので、更なる高専女子ブランドの発信を目指し、2013年度より全国地区毎に開催する運びとなりました。

第1弾として、「2013年度 高専女子フォーラム in 関西」を下記のとおり開催いたします。企業・高専関係者の貴重な情報交換の場となりますので、是非フォーラムにご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時：8月30日（金）10時～17時 場所：新大阪丸ビル 別館

（参加申込）<http://rikeigokoro.jp/jyoshi-forum/>

（問合せ先）高専女子フォーラム事務局（奈良高専総務係）

※開催予定

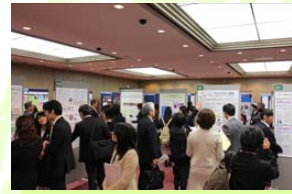
関東信越地区：12/23（月・祝）学術総合センター／四国地区：3/22（土）かがわ国際会議場

各地区の開催年度及び代表幹事校

H25年度：奈良高専（近畿地区）、東京高専（関東信越地区）、香川高専（四国地区）

H26年度：釧路高専（北海道地区）、富山高専（東海北陸地区）、呉高専（中国地区）

H27年度：仙台高専（東北地区）、北九州高専（九州沖縄地区）



過去のフォーラムの様子

男女共同参画推進室のWebサイト

男女共同参画推進室のWebサイトでは、ワークライフバランスに配慮した休暇等制度、ベビーシッター利用育児支援等の紹介、各高専の取組、教員の紹介・体験談、女子中学生向けイベントなど様々な情報を発信しています。女性研究者交流支援システムの利用も当サイトからできますので、ぜひ、ご活用ください。

●男女共同参画推進室Webサイト



●女性研究者交流支援システム



女性教員、女性技術職員がオンラインで交流することができるシステムで、高専内でクローズされた環境で安心して情報のやり取りができるような仕組みになっています。公開ページの外、ライブストリーミング、動画アーカイブ、コミュニティサイト、会員情報、プライベートメール、アンケート等の機能があります。

【ログイン方法】

・ログインIDおよびパスワードは、高専共通システム（「Web給与明細システム」等）と同一のアカウントとパスワードをご入力ください。

・ログインメニュー内のコミュニティTOPにある「システム登録設定マニュアル」を開き、登録設定マニュアルを参考にマイプロフィールをご入力ください。

ぜひ、検索してみてください！

リレー日誌近日開始！

交流支援サイトのコミュニティページでリレー日誌が始まります。女性教員・技術職員がリレー形式で日常の出来事や校務、教育、研究について書き込み、意見交換をします。ご参加お待ちしております。



Information

全国高専教育フォーラム

『高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ』を開催します！

日時：8月23日（金）9時～12時

場所：豊橋技術科学大学 A-306

女性研究者交流システムを活用しながら、女性教員のキャリアパスや支援プランをディスカッションします。

★男性教員の参加も歓迎します。

（交流支援サイトで動画配信予定）



昨年のワークショップ風景（24.8.29開催）

研究支援員配置制度について

出産・育児・介護等のため、研究に十分な時間を確保することが困難な研究者等に研究支援員を配置し、研究の支援を行うことで、ワーク・ライフ・バランスを保ちながら継続して研究が行うことができるように支援する制度です。

平成25年度は13高専15名の方が利用しています。今年度の申込みは終了していますが、必要な状況になったときには、いつでも申請することができますので、遠慮なく女性研究者支援オフィス（j-office@kosen-k.go.jp）までお問い合わせください。

募集要項は女性研究者交流支援システムのURLからご覧下さい。

<https://j-support.kosen-k.go.jp/women-support/>



独立行政法人国立高等専門学校機構 男女共同参画推進室

〒193-0834 東京都八王子市東浅川町701-2
E-mail danjo@kosen-k.go.jp
TEL 042-662-3151/FAX 042-662-3131
<http://gender.kosen-k.go.jp/>